

国

語

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の実践と適切な評価について～

(2) 研究のねらい

学習指導要領「現代の国語」「言語文化」の指導内容に基づき、単元で身に付けさせたい資質・能力の育成を目指した学習過程の実践と評価方法について研究を行った。

「現代の国語」については、「話すこと・聞くこと」の領域における単元の指導計画及び評価方法の検討を行い、実践した。「言語文化」については、「読むこと」の領域における単元の指導計画及び評価方法の検討を行い、実践した。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：現代の国語

イ 単元名：わかりやすく伝えるための3か条を考えよう

ウ 単元の目標：

(1) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。[知識及び技能]

(1) オ

(2) 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して 論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。[思考力、判断力、表現力等] A (1) イ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。(1) オ	「話すこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう自分の立場や考えを明確にし、論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。A (1) イ	効果的な組立て方や接続の仕方を意識した論理的な会話表現を工夫する中で、自分の考えが的確に伝わるよう、聞き手からの助言などを踏まえ、粘り強く自らの学習を調整しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	○学習の見通しを立てる。 ○論理的な表現のルールを、例文の分析を通して知識として理解する。 ○「わかりやすく伝える」ために重要な要素を考えさせ、Google スプレッドシートに書き込ませる。 ・クラス内で出てきた意見の中で、特に大切だと考える要素を選び、「わかりやすく伝えるための3か条」を定める。	○			・書き込ませたGoogle スプレッドシートをGoogle Classroom上で全体に共有する。 [知識・技能] (1) オ 「わかりやすく伝える」ための要素を整理し、文章の効果的な組立てや接続の仕方についての理解を深めている。 (ワークシート及び振り返りシートの記述の確認)

2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○構成メモを作成する(下書き程度のものでかまわない)。そのメモを基にグループで発表する。 ・聞き手は良いところ、改善すべきところをメモする。発表終了後に発表者に渡す。 ○身に付けた技能をいかして書く。 ・前時に考えた「わかりやすく伝えるための3か条」と今回の発表を経て聞き手から受け取ったメモを参考にしながら、「職業を選択する際に優先すべき価値観は何か」というテーマで原稿を書く。 			<ul style="list-style-type: none"> ・原稿は、発表を通して気が付いたことを赤で訂正したところまでを評価に含むことを伝える。 ・発表の様子を自己の媒体で動画撮影させる。評価する物ではなく、自己の振り返りに使用させる。 ・発表時間は2分程度であることを伝え、話す分量や順番を考えさせる。
3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ発表を行う。 ・前回の授業で作成した原稿を基にグループ発表を行う。 ・前時と同じように聞き手はメモを取る。 ○グループで意見を共有する。 ・発表の中で良かった人は誰か、またその発表はなぜ良かったのかを考えさせる。また、自分で定めた「わかりやすく伝える3か条」についても話し合う。 ○グループで共有したことを全体で発表する。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで共有したことを全体でも共有する。 <p>[思考・判断・表現] A (1)イ 発表や話し合いを通して得た気づきや意見を、自分の原稿や3か条に反映させ、話の構成や展開を改善させている。 (ワークシート及び振り返りシートの記述の確認)</p>
4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の確認をする。 ・「わかりやすく伝えるための3か条」について前時で出てきた意見について確認を行う。 ○原稿を仕上げる。 ・自己の発表動画を見ながら(聞きながら)、前時に班員から出た意見やメモを参考にして原稿を赤で訂正する。 ○振り返りを行う。 ・クラス全体で「わかりやすく伝えるための3か条」を定める。1次に自分で定めた「3か条」や発表、話し合いで出た意見を参考に最終決定をする。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・赤で訂正する際に、なぜそのように変更をしたのかがわかるように工夫をするように指示する。評価規準に“気づき”も含まれていることを確認する。 <p>[主体的に学習に取り組む態度] 発表を通して得た気づきや、話し合いを通して出てきた意見を自分の原稿や3か条に反映させようとしている(伝わりやすい原稿にしようとしている)。</p>

カ 授業実践例 (3時間目/4時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
1. 本時の目標を確認する。(5分) ・「自分の考えをわかりやすく人に伝える」ためには何が大切なのかを理解する。その際に、前時に行ったグループ発表の振り返りや各自で定めた「わかりやすく伝えるための3か条」を意識する。	[思考・判断・表現] A (1)イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。
2. 原稿を基にグループ発表を行う。(25分) ・発表時間は1人2分間。聞き役フィードバックや次の発表者との転換を含めて5分間とする。 ・フィードバックの内容を振り返りに反映できるよう、他者の助言や自己の気づきについて具体的にメモを取る。	

<p>3. グループで意見を共有する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表の中で良かった人は誰か、なぜ良かったのかを話し合う。また、自分が何を意識して(自分で定めた3か条)発表したのかを共有する。 それぞれ自分で定めた3か条が異なるが、良かった発表の共通点や複数の発表を聞く中で気付いたことなど、わかりやすく伝えるために大切なことへの理解を深める。 <p>4. グループで共有したことを全体で発表する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような発表が良かったか、他の人が納得するような発表にはどのような特徴があったかについて、グループで話し合ったことを発表する。 出てきた意見に応じて、必要があれば教員から補足の説明を行う。 <p>【例】今回のスピーチでは1時間目から「わかりやすく伝えるため」に必要な要素や内容についての指導を行ってきた。また、原稿(内容)の評価を行うことも生徒に事前に示している。そのため「話す」ことの技術面についての意見が生徒からは出てこない可能性がある。</p> <p>その場合には、人前で話をする際には、本単元で学んだことの他に、声の抑揚、間の取り方や聞き手の反応をつかむなど、技術的な要素も重要であることを補足する。</p> <p>5. 本時のまとめと次回の見通しの説明。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の発表や意見を参考に原稿の訂正を行うことや持ち物などを確認し、次回の活動に対して見通しをもつ。 	<p>(ワークシート及び振り返りシートの記述の確認)</p> <p>※評価規準 発表を通して得た気づきや、話し合いを通して出てきた意見を自分の原稿や3か条に反映させ整理することができた(わかりやすく伝わる原稿になった)。</p> <p>この評価規準は生徒に提示する。</p>
--	---

研究実施校：神奈川県立横浜翠嵐高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月24日(月)

授業担当者：杉山 真里亜 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的な学び

本単元は、「自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。[思考力, 判断力, 表現力等] A(1)イ」を単元の目標とし、「わかりやすく伝えるための3か条」という具体を考察させた上でスピーチ原稿を作成させた。自分の考えが的確に伝わるためにはどのような工夫が必要かという視点で省察させることによって、自分の発表原稿がより適切な表現となっているのか都度振り返りながらブラッシュアップさせることができた。従前の授業においては「書きっぱなし」であることも多い中で、このように原稿を自ら見直し、より良く伝えるための工夫が主体的になされたことは収穫であった。

また、この原稿作成という過程を経ることで、「話すパフォーマンス力」よりも、「わかりやすく伝えるための工夫とその実践」に着目する視点を身に付けさせることにつながった。伝わるようにしていく工夫は、準備における工夫の段階と、パフォーマンスにおける工夫の段階と二つの段階に分けることができるが、本単元を通して「自分の考えが的確に伝わるよう」にするためには準備における工夫が必要であるという実感としての学びがあったと言えるだろう。

課題としては、中学校までの「話す・聞く」領域の学習内容とのつながりが希薄であったことが挙げられる。導入段階で既習事項を振り返る機会を設けることで、改めて相手や場に応じた内容や表現の工夫の必要性について生徒に主体的に考えさせることを通して、深い学びへとつなげていきたい。

イ 対話的な学び

単元を通して「自分の考えが的確に伝わるよう」工夫した意見を、相互に点検し改善点を出し合うとともに、相手の良さについても吸収しながら、より高い完成度を目指すことができた。本発表の前に練習発表を置くことで、メモを基に構成や展開、表現について、より「伝えるための」という視点で推敲する様子が見られた。

アにも書いたとおり「書きっぱなし」が往々にして起きるのが高校生の活動であり、そうならないためには、途中で自分以外の客観的な視点を入れることと、自らが客観的な視点をもつことが必要である。

このように対話的な学びの活動を取り入れることによって、客観的視点で自らを見る訓練となった。

これらの気づきを原稿に落とし込んだか、「わかりやすく伝えるための3か条」に反映させることができたかという点については、ワークシートの記述から[主体的に学習に取り組む態度]として評価した。原稿そのものの巧拙にとらわれず、何に気づき、どう自分の原稿の改善に反映させていったか、そのつながりは適切であるかという点に着目することに留意したい。

ウ 深い学び

例文の「悪い点」を指摘する活動による「よりよく伝えるために必要な要素」について考える活動によって、主体的に思考を深めることができた。主張と結論の関連性や主張と論拠の結び付きといった、論理的な文章となるために必要な要素について、学びを深めることができた。

また、スピーチ原稿の相互評価や振り返りを通して自身の変化を可視化し分析していくことで、本単元のみにとどまらない汎用的スキルが獲得できたと考えられる。

課題としては、原稿作成時に、主張や論拠が相手に「伝わる」内容や表現になっているのか不安を感じている生徒がいたことが挙げられる。また、発表の際「話すパフォーマンス力」に意識が向いてしまい、内容を思うように伝えきれていないグループもあった。今後は、聞き手が話し手の主張を受容する姿勢には「納得・理解・共感」の三つの側面があり、それらを得るためにどのような工夫を施して伝えるかを意識させながら原稿作成に取り組ませたい。また、発表時にはどのような観点でスピーチを評価するのかを事前に確認させることで、内容や表現に焦点を当て自ら吟味する指標をもたせるようにしたい。

※生徒ワークシート記入例

「わかりやすく伝えるための3か条を考えよう」～イイタイコトはこういうこと～への道のり①

【目的】

- ・話の聴衆的な観点から発話の仕方について理解することができる。
- ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。

【活動】

- ① 例文または「わかりやすく伝えるための3か条」をよまえ、テーマについて自分なりの考えを持つ。
- ② 例文または話を聞いて筆者から助言をもらい、本発表用の原稿を準備する。
- ③ 「わかりやすく伝えるための3か条(改)」や発表時間を意識しながら、本発表を行う。
- ④ 発表活動を通して筆者から助言や自己の気づきをよまえ、原稿を仕上げ(修正)する。

①わかりやすく伝えるための3か条

あなたの選んだ3か条(選定理由)

- ・主張を明確にする
- ・正確かつ有効な情報を使う
- ・一文は簡潔にまとめる

②テーマ「職業を選択する際に優先すべき価値は何か」(構成メモ)

【自己のアイコト】

自分の能力を發揮できる(かを)か

【論拠(理由・具体・体験談など)】

人へ役に立つ → 自分の能力を最大限發揮できる

【まとめ】

「自分の価値観」

③練習発表

発表者氏名	発表者のイイタイコト	内容メモ、いいところ、伝わりやすく改善すべきところなど
1	感情表現の豊かさ	具体的に語る
2		
3		

②「職業を選択する際に優先すべき価値は何か」(原稿作成)・本稿の発表時間は2分間

私は、自分の能力を最大限に發揮できることを重視すれば良いと、私は思います。

自分の得意なことを仕事にできれば、成果がわかり、達成感を得られ、おのずと仕事にやる気が出てくると思います。

また、自分の能力を最大限に發揮すれば、人への役に立つことができます。

以上を理由から私は、(職業)として、

→ 最終的に最も重要視すべきは、このように、自分の価値を最大限に發揮できること、人への役に立つこと、で、職業と選ぶ時は自分の得意なことを活かせること、が最も重要視すべきだと思います。

③発表
 ペア発表後、ペアの人がメモしてくれた発表書きの内容と動画（録音）を参考にして作成する。
 ・発表の内容（理由が詳しく説明されており、論理的な説明になっているか）
 ・品の構成（順番が整理されているか、話す順番や長さ調整は適切か）
 ・聞き手（事前に記した原稿を添ったではなく、）

(1) 発表者が発表します。(2分)
 ・事前に自分の定めた書き込みをグループに提出してから始めよう。
 ・原稿やメモなどをそのまま読まずに、「相手に伝える」ことを意識します。
 ・聞き手はそれをしっかりと聞きましよう。感想シートにメモを取るなら発表書き程度で。
 ・発表者は聞き手のために、発表を自己の媒体で撮影（録音）しましょう。

(2) グループで振り返りをおこないます。(3分)
 ・2分経過し、発表が終わったら聞き手は感想シートを完成させます。(1分以内)
 ・いいところや改善すべきところはもちろん、前回より改善されていた点や新たな発見など気づいたことを紙で共有し合います。

◎感想シート
 発表者氏名 | 発表者のイイポイント | 内容メモ、おかりやすかった・おかりづらかったところ、感想

1	やりがい イイ	内容を「向上」にしよう。 40分近くつづける仕事→モチベーション必要。 本題問題「異文化」と身近な「異文化」	聞き手が話しているのを、 肩越しに話すという練習をして、 目が合っているのを、 もういいところを見つけてあげよう。
2	楽しくて 伝えたかった	モチベーション向上に「パフォーマンス」 オンラインゲームとまで 「本題」から話を 「異文化」には「異文化」	
3	生活以外にも 伝える内容を 伝えていること	話す 自分の生活は、自分の生活に合わせた 生活の話題は必要。 コロナで新しい生活の「異文化」	

◎グループ内で一番良かった発表をした人は誰ですか？
 氏名 | 理由
 〇〇〇さん | 〇〇〇さんにとって、その仕事のことについては興味のない話にも、とる
 けられて、身近な例と本題問題→例と本題の共通点があるところから。

◎良い発表は、なぜ良かったのですか？グループでたくさん書き出してみよう
 話し方の技術、語彙の選択に関すること
 11/19
 書く言葉の選び方はなく、話し手側には聞き手が話している内容を、頭に入れてお
 話しの内容の中身、聞き手に関すること
 身近な例（異文化）の資料力
 ・本題問題→異文化→身近な例（異文化）
 ・聞き手側は聞き手のために、発表を自己の媒体で撮影（録音）しましょう。

④全体を通して自分の発表を振り返ろう
 ◎発表やグループワークを通して、あなた自身の発表をより良くするために必要なものは何ですか？
 改めて自分の発表動画やグループのアドバイスを参考に考えてみましょう。

イイポイント | 聞き手が話しているのを、
肩越しに話すという練習をして、
目が合っているのを、
もういいところを見つけてあげよう。

◎上記の反省をふまえて、活動④の原稿を赤ペンで修正してみましょう。
 ◎わかりやすく伝えるためのベスト・オプ3箇条を考えよう。

其一 聞き手と興味をひく最初のつかまりやすい異文化例、話しかける。
 理由 聞き手とお互いが理解しようという気持ちに伝わりやすい。
 其二 聞き手と関わりやすい具体的な例。
 理由 主観の理由が具体的に伝わり、理解力があがる。聞き手にとっても理解しやすいから。
 其三 聞き手の反応を伺いながら臨機応変に話す
 理由 聞き手の反応を見て言葉をついで、聞き手にとってより伝わりやすいから。

※単元終了後ワークシート提出。 1年()組()番()

【事例2】
 (1) 単元指導計画

ア 科目名：言語文化
 イ 単元名：令和最新版新古今恋歌集 ～比較して見える恋模様～
 ウ 単元の目標：

- (1) 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。 [知識及び技能] (2)エ
- (2) 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)オ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2)エ	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。B(1)オ	和歌と現代の歌謡との共通点や相違点を考える活動を通して、他者の考えを基に我が国の言語文化について自分の考えを深めるため、粘り強く自らの学習を調整しようとしている。

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・ 指導上のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しを立てる。 ・和歌の学習の振り返りを行う。 ・和歌を一首取り上げ、全体で内容、技法等を学習する。 ・和歌の一覧を確認し、事前に準備した歌謡(J-POP)を踏まえ、自分が興味をもった和歌一首を選ぶ。 ○古典特有の表現を理解し、読み手の心情や、表現技法を理解する。 ・選択した和歌の内容・技法を調べ、作者の心情を整理する。 ・調べた内容は「Google スライド」にまとめる。 	○			<p>[知識・技能](2)エ 和歌に用いられている語の意味や修辞技法を正しく理解し、正確な訳解ができている。 (「Google スライド」の記述)</p>
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○古典と現代におけるものの見方や感じ方について考える。 ・現代における「歌謡(J-POP)」と、調べた和歌とを比較、関連させ、当時と現代のものの見方や考え方、感じ方について、共通点及び相違点を分析し、「Google スライド」にまとめる。 ・発表の準備を行う。 		○		<p>[思考・判断・表現]B(1)オ 和歌と歌謡を関連させ、当時と現代のものの見方や感じ方の継承について、根拠を基に自分の考えをもつことができている。 (「Google スライド」の記述)</p>
3	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○他者のものの見方や感じ方を知り、自身の考えを深める。 ・自身の調べた内容を発表する。 ・発表された内容に対して、自分の考えを記入し、発表者と意見を交換する。 ・他者からのコメントを基に、自身の考えをブラッシュアップする。 ・全体で発表内容を交流する。 ○学習の振り返りを行う。 ・グループ、全体での意見交流を終えて、他者の発表や、他者からのコメントをもとにして気付いたこと、考えたことをまとめる。 			○	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 他者の発表や意見をふまえ、我が国の言語文化に対する自らの学習を調整し、考えを深めようとしている。 (「Google フォーム」による振り返り)</p>

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」

カ 授業実践例 (3時間目/3時間)

学習活動 (指導上の留意点も含む)	評価の観点 (評価方法)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の振り返りを行い、本時の目標を確認する。 ・自身が選択した和歌と、歌謡(J-POP)についての分析を整理し、交流の準備をする。 2. グループで交流する。 ・発表時間は1人5分とする。 ・発表者は、自分が選んだ和歌、歌謡(J-POP)についての分析、和歌と歌謡(J-POP)の共通点と相違点について説明する。 ・聞き手は、発表者の考えを自分のスライド内のメモに簡潔に記録する。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 他者の発表や意見を踏まえ、我が国の言語文化に対する自らの学習を調整し、考えを深めようとしている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は自分のメモを基に、発表者の分析や考えについて考えたことを発表者スライド内の交流コメント欄に入力する。 ・発表者は聞き手のコメントを見て、気付いたことや考えたことを自分のスライドに記録し、自分の分析を見つめ直す。 <p>3. グループの中で代表者を1名選出し、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表発表者は、グループ内で出た考えも紹介し、それを踏まえてブラッシュアップした自分の分析を発表する。 ・聞き手は、発表者のスライド内の交流コメント欄に入力する。 ・指導者は、聞き手に発表者の考えの変容にも注目するよう促す。 <p>4. 学習のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を経て深まったこと、考えたことを自分のスライドにまとめる。 ・Google フォームで、学習を通しての振り返りを行う。 	<p>(「Google フォーム」による振り返り)</p>
---	-------------------------------

研究実施校：神奈川県立多摩高等学校(全日制)
 実施日：令和4年10月28日(金)
 授業担当者：芦原 徹 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的な学び

本単元では、「時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。〔知識及び技能〕(2)エ」、「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ」を目標とし、和歌と現代の歌謡を比較・分析して得られた学びを共有する活動を行った。現代の歌謡と比較する和歌を探す際、教員がある程度和歌を選択して生徒に提示する手順をとったが、生徒の中には、情景や感覚に関連性のある和歌を自ら文献やインターネットを使用して探し出し、自身の分析をより深くできるように試みる者も見られ、積極的に比較・分析の活動に取り組み、類似点や相違点の気づきを発表する生徒が多く見られた。身近なものとの比較によって、遠い過去のものとして認識してしまいがちな古典、和歌の魅力を理解することにつながり、自分のものの見方や考え方を深めるきっかけとなったと言える。

振り返りには、「感情、情景、環境、行動など多面的に物事の違いや似ているところを観察し、今後の国語の読解や生活そのものにもいかしていきたいと思う。」など、今後の学ぶ姿勢や方法にも言及する生徒が見られた。単元間のつながりも意識して、生徒の学びがより意欲的で深いものとなるよう今後の授業を展開していくことが必要である。

イ 対話的な学び

本単元では、比較・分析の際のワークシートとして、「Google スライド」を使用した。これは、学習を進める際の振り返りやすさやまとめやすさを考えたものであり、スライドの中には、他者との交流で得られた学びを整理できるよう、「班員からのコメント」スライドを用意した。班員が、発表者の比較、分析を聞いて気付いたことや考えたことを入力することで、自身の比較、分析によって得られた学びだけでなく、同じ現代に生きる人の、自分とは異なった感性やものの見方や考え方を知ることにつながった。発表者も聞き手も、より多くの学びを得られた活動であったと言える。

課題としては、発表を聞いてコメントをする際に、自身の感想のみを入力して活動を終わらせてしまっている生徒が見られ、聞き手、発表者の両者にとって自分の考えを深める機会が少なくなってしまうことが挙げられる。改善策として、コメント入力の際に、伝える内容について指定したり、発表者に疑問を投げかけるようにして考えるきっかけを作ったりする等、スライドを工夫し、活動の道筋を示すことが必要である。

ウ 深い学び

比較・分析の活動を経て、共通点と相違点について、言葉のもつ意味やイメージの普遍性、時代の流れによる変化について考えることができおり、古典と現代の言葉のつながりについて考えを深められていた。また、生徒の振り返りの中には、上記の気づきを基にして相違点が生じた要因について文化的な背景の違いや、人とのつながり方の違い、価値観の違いなど、多様な視点から理由を分析している生徒が見られた。古典と現代とをつなぎ、我が国の言語文化について自分の考えをもつことを実感できた学びであったといえる。

学習のまとめでは、グループでの交流後、他者からの意見や疑問を基に考えた内容を踏まえてまとめ

のスライドを作成する活動を行った。まとめのスライドには、他者から指摘されたことを基にして新たに考えたことや感じたことを整理する生徒が多く見られ、欠けていた視点や新たな感覚を得て、自らの考えを深めることができていた。

課題としては、歌謡と和歌の比較の際に、歌謡の分析に重きを置いてしまい、和歌の理解や古典と現代とのつながりにまで学びを深められなかった生徒がいたことが挙げられる。指導事項として「言葉」に注目することを大切にさせるために、分析するポイントを絞って考えやすくなるような声掛けが必要であった。また、交流を経て自分の考えを深める場面では、発表時間の短さによって発表者の分析を理解できないままコメントせざるを得ない生徒や、コメントが感想のみで終了しているグループ等、他者からのコメントが上手く機能しない場面があったことも反省点であった。「イ 対話的な学び」で述べたように、他者との交流が、多様なものの見方や考え方を理解するための重要な活動となったことを踏まえ、スライドの中にコメントする観点を示すものを用意するなどして、交流を有意義なものとするような手立てが求められる。

*** 生徒が作成したスライドの例**

<p>考えてきた J-POP「オレンジ -GReeeen」</p> <p>【歌詞・心情】</p> <p>「振り返り目があった瞬間 赤く染めた頬を 空の色のせいにした ・・・ ああ 止められない これなんだい？ 焦るこの胸の鼓動が 君に聞こえそうで 近づけない どうしようもないくらい 君が好きなんだ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 顔にまで表れた感情を「空のせい」とごまかし、素直になれない様子を情景を使って効果的に表現している！ サビでは感情を隠さず、ストレートに思うままに表現している！ 	<p>和歌「忍ぶれど色にいでにけりわが恋は物や思ふと人のとふまで」</p> <p>【表現技法】</p> <p>○語句 「忍ぶ」 人に知られないよう心に秘めてきたけど 「色にいづ」 恋愛感情が顔つきに出る 「けり」 感動、詠嘆を表す 「ものや思ふと」 恋について想いわずらう（「や」は疑問詞）</p> <p>○文法 倒置法... 「秘めていたはずの恋心が表に出てしまった」ことを最初に置くことでその情景を強調している！ 「表情に出ている、私の恋が」と2句と3句でも倒置法を用いている！ 伝聞... 恋の思いを直接読まず、「他の人が自分が恋をしていると言っている」という伝聞の形で表している！ 結句... 「まで...」とただらかにつなげることで余情を残している！</p>
---	--

<p>和歌「忍ぶれど色にいでにけりわが恋は物や思ふと人のとふまで」</p> <p>【現代語訳】</p> <p>心に秘めてきたけれど、顔や表情に出てしまっていたようだ。「恋の想いごとでもしているのですか？」と人に聞かれるほどに</p> <p>【読み手の心情のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「けり」や「まで」等、短い言葉で情景を最大限に表現しようと工夫が凝らされている。 倒置法や伝聞を用いることにより、自分の気持ちに素直になれていない様子を効果的に表現している。 	<p>比較したいところはココ!! 素直になれない、それでも表れる恋愛感情をどう表現しているのか！</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="829 1064 1093 1220"> <p>自分の分析 【和歌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの倒置法を用いて、「ずっと心に秘めてきた」ことを強く、丁寧に表現。 「表情に出てしまうほど好き」という気持ちを「人に言われた」と詠い、素直になれていない様子まで表現。 </td> <td data-bbox="1093 1064 1220 1220"> <p>共通点や相違点は？</p> </td> <td data-bbox="1220 1064 1492 1220"> <p>自分の分析 【J-pop】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「空の色」を用いて素直になれない気持ちを表現。 サビになるにつれて、「どうしようもないくらい」と相手への気持ちを露わにして歌っている。 </td> </tr> </table> <p>比較して考えたこと 恋愛感情はなるべく心に秘め、なかなか素直になれないという気持ちは、昔から今まで変わらないものだったということが分かった。その気持ちを表すため、和歌では伝聞を、J-popでは情景描写を用いて表現している部分は少し異なるが、どちらも直接的ではなく間接的に表現しているところが、日本人の含蓄が表れている。</p>	<p>自分の分析 【和歌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの倒置法を用いて、「ずっと心に秘めてきた」ことを強く、丁寧に表現。 「表情に出てしまうほど好き」という気持ちを「人に言われた」と詠い、素直になれていない様子まで表現。 	<p>共通点や相違点は？</p>	<p>自分の分析 【J-pop】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「空の色」を用いて素直になれない気持ちを表現。 サビになるにつれて、「どうしようもないくらい」と相手への気持ちを露わにして歌っている。
<p>自分の分析 【和歌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの倒置法を用いて、「ずっと心に秘めてきた」ことを強く、丁寧に表現。 「表情に出てしまうほど好き」という気持ちを「人に言われた」と詠い、素直になれていない様子まで表現。 	<p>共通点や相違点は？</p>	<p>自分の分析 【J-pop】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「空の色」を用いて素直になれない気持ちを表現。 サビになるにつれて、「どうしようもないくらい」と相手への気持ちを露わにして歌っている。 		

<p>和歌「さつき待つ 花橘の香をかげば 昔の人の 袖の香ぞする」</p> <p>【現代語訳】</p> <p>五月を待って咲く花橘の香をかぐと、昔親しくしていた人の袖（に薫っていたお香の）の香がするようで懐かしい思いになる。</p> <p>【読み手の心情のポイント】</p> <p>花橘の白い花という視覚的な要素と嗅覚的な要素である花の香りが「今」と「昔」という二つの時間を繋げ、作者のほのぼのとした思いが伝わる。</p>	<p>比較したいところはココ!! 「匂い」に秘めた思い</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="829 1377 1093 1534"> <p>自分の分析 【和歌】</p> <p>香で過ぎ去った昔の日々を思い出す切なさ詠む。 香りが今と昔をつなげる懸け橋になっている。</p> </td> <td data-bbox="1093 1377 1220 1534"> <p>共通点や相違点は？</p> </td> <td data-bbox="1220 1377 1492 1534"> <p>自分の分析 【J-pop】</p> <p>相手への感情を匂いとともに伝える。 変わらない香水の香りで楽しかった日々を思い出す。</p> </td> </tr> </table> <p>比較して考えたこと 匂いとともに思い出があふれるという部分は共通していて今と昔の日々をつなぐ記憶になっていた。恋という感情がそのまま表されるのではなく別の感覚とともに表現されていた。</p>	<p>自分の分析 【和歌】</p> <p>香で過ぎ去った昔の日々を思い出す切なさ詠む。 香りが今と昔をつなげる懸け橋になっている。</p>	<p>共通点や相違点は？</p>	<p>自分の分析 【J-pop】</p> <p>相手への感情を匂いとともに伝える。 変わらない香水の香りで楽しかった日々を思い出す。</p>
<p>自分の分析 【和歌】</p> <p>香で過ぎ去った昔の日々を思い出す切なさ詠む。 香りが今と昔をつなげる懸け橋になっている。</p>	<p>共通点や相違点は？</p>	<p>自分の分析 【J-pop】</p> <p>相手への感情を匂いとともに伝える。 変わらない香水の香りで楽しかった日々を思い出す。</p>		

<p>①()さんからのコメント</p> <p>交流シート</p> <p>○気づいたこと・考えたこと・疑問に感じたこと</p> <p>匂いというか香りが、思い出を呼び起こすトリガーとなっており、また、「恋」という言葉をそのまま使わず、他の語で表現する共通点から、日本人は今も昔も一つの要素から様々な心情を想像できるところは変わっていないと思いました。</p> <p>しかし、和歌の方が五感をより多く趣深くなるように工夫しているように感じられました。</p> <p>○私ならこのJ-pop！</p>	<p>③()さんからのコメント</p> <p>交流シート</p> <p>○気づいたこと・考えたこと・疑問に感じたこと</p> <p>過去の恋愛、香りなど共通のキーワードがたくさん含まれていて良い選曲だと思います！和歌のほうは別れをすんなり受け入れている感じがしたけど、jpopは少し心残りがあるところが違うと思いました。和歌の季節は初夏だと分かりましたが、jpopのほうはどの季節の歌なのか気になりました。</p> <p>○私ならこのJ-pop！</p>
--	--

交流を終えて 再考・まとめシート

仲間の考えを聞いて、自分の分析を振り返ってみよう。
最初の自分の分析とどのように変わりましたか？

①比較したい(比喻の対象&歌を構成しているもの)について

和歌 対象が自然 自然が身近

J-pop 対象が信号機やガラスの蓋 身近なもの(機械)

MV・タイトルも重要 例えば、ガラスの蓋を閉める→閉まりきってない
隠しきれてない

②想起するJ-popについて

③その他気づいたこと・考えたこと

透明→実は伝わっている？ 伝えちゃいけない でも伝えてほしい、

* 学習の振り返り(生徒の記述より抜粋)

- 短歌という昔に書かれたものは初めて触れるにはハードルが高いけれど現代のJ-POPと比べて同じ点や違う点を探すととても理解が深まりやすいと思った。
- 短歌の現代語訳など調べていく中で現代を生きる私たちと昔を生きた詩人には同じ感情があることが分かった。逆に時代の環境は異なっていて、例えば「想いが伝えられない」でも昔は立場的に付き合えなかったことがあるのに対し、現代では恥ずかしがってしまって付き合えなかったりするという違いも分かった。今回の授業を通して似ているけれども性質が違う二つの物の比べ方が少しくまくなったと思う。
- 感情、情景、環境、行動など多面的に物事の違いや似ているところを観察し、今後の国語の読解や生活そのものにもいかしていきたいと思う。
- 今回は、他の人の発表を聞いて、様々な和歌とJ-POPについて知り、考えを広げることが出来ました。自分のプレゼンでは、上手く言いたいことが伝わらなかった部分もあるので、説明の仕方やスライドをより工夫してまたこのような機会があったときに改善できるようにしたいです。時代は違っても変わらない部分や全く異なる部分も発見できて、とても面白い授業でした。これから古典や昔の文学作品等を学ぶときは、その時代ならではの表現や心情などにも注目をして読み取りながら学びたいと思いました。
- 和歌と現代の曲を比較するという点が非常に面白かった。今回和歌を深掘したことによって同じ言葉でも使うタイミングによって受け取られ方が違ったり、一つの言葉でも複数の意味があったりすることが分かり、非常に奥の深い言葉遊びだと感じた。時間があるときに和歌を作ってみるのも面白いと思った。
- 和歌を通して、日本人の性質が変わったのかなとか様々な事を読み取ることが出来た。ただ、これはこういうものだって頭で決めつけて自ら思考の幅を狭めちゃってたのか、全然友達の発表に対して気になった点とかをあげることが出来なかったの、もっと柔軟に思考をロックせずに考えたい。